

2025年 1月15日(水) 10:00—17:00

災害デジタルアーカイブの最前線

能登半島地震から1年・石川県デジタルアーカイブキックオフイベント

石川県立図書館

エントランス、だんだん広場、食文化体験スペース
石川県金沢市小立野2丁目43番1号

主催 東京大学大学院情報学環（渡邊英徳研究室、講談社・メディアドゥ新しい本寄付講座）
株式会社 QUICK（「共同研究 災害地域の多元的デジタルアーカイブの研究開発」、
東京大学大学院情報学環 渡邊英徳研究室、株式会社 QUICK）
後援 石川県、NHK 金沢放送局、読売新聞社（予定）



2025年1月には、阪神・淡路大震災から30年、そして能登半島地震から1年が経過します。

激甚災害は絶え間なく発生しており、災害の実相を記録し、未来の備えに活かす「デジタルアーカイブ (DA)」の重要性は高まっています。QUICK は 2024年8月に東京大学大学院情報学環の渡邊英徳研究室と共同で「災害地域の多元的デジタルアーカイブズの研究開発」を開始しました。

そして、石川県が構築を進める「能登半島地震アーカイブ（仮称）」が1月に公開される予定です。そこで、公開を記念し、今後の能登半島地震アーカイブの発展・活用の出発点となるイベントを開催することいたします。本イベントは、東京大学・NHK の包括連携協定（東京大学創立 150 周年記念事業）の一環として実施されます。



参加無料
ワークショップは事前に応募・登録が必要です

1.

災害 DA 展示

(エントランス、だんだん広場)

フォトグラメトリ、衛星画像・航空写真、デジタルアース、VR・AR などの最先端技術を利用した災害デジタルアーカイブの取り組みを上映展示します。これらの技術により、高精度な被災地の再現や詳細な災害状況の記録が可能となり、復興支援や防災教育に大きく貢献することができます。



12:00

17:00

2.

これからの活用を考えるシンポジウム

(だんだん広場)

「能登半島地震アーカイブ（仮称）」を含めた災害 DA を今後社会的にどのように活用し、継続的に発展させていくか、地元関係者、技術、社会、経済、教育等様々な観点から率直な意見交換を行います。

①ご挨拶 (10分)

主催者挨拶

渡邊 英徳 (東京大学 教授)

②オープニングアクト (90分)

登壇者

小松 尚平 (東京大学 特任研究員)

清水 雅楽乃 (アステナホールディングス株式会社 常務執行役員)

上甲 鉄 (読売新聞写真部 記者)

鈴木 聡 (NHK メディアイノベーションセンター)

素都 明子 (石川県 知事室戦略広報課 課長)

羽生田 文登 (Code for Noto 代表)

渡邊 英徳 (東京大学 教授)

(50 音順・敬称略)

③会場からのご発言 (15分)

※アンケートツールを活用

④ご挨拶 (5分)

主催者挨拶

高見 信三 (株式会社 QUICK 代表取締役社長)



3.

DA 技術・リテラシー取得のためのワークショップ (第1回)

(だんだん広場)

地域の皆さんが主体となって収集した写真や映像、体験談などの貴重な記録が、今後は災害の実態をより深く理解するための重要な資源となっています。本ワークショップは、市民参加の DA 構築と活用のための技術を身に着けるため、石川県民のあらゆる世代を対象に継続的に行なうワークショップ・シリーズの第1回となります。今回は災害データをもとにした「デジタルマップ」と「AR アプリ」の作成法を学びます。

10:00 - 12:00

デジタルマップ作成
(持ち物: PC)

15:00 - 17:00

AR アプリ作成
(持ち物: PC + スマホ)

